

2024 年度
事業報告書
(公益第 12 期)

2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日



目次

1. 概況	3
2. 事業	7
ア. 市民活動団体への助成事業	7
(1) 共感寄付事業	
(2) 有園博子基金事業	
(3) 真如苑・ひょうご多文化共生基金事業	
(4) ひょうご・みんなで支え合い基金事業	
(5) 災害支援事業	
イ. 市民活動団体への非資金的支援事業	18
(6) 地域課題に取り組む NPO 等に対する運営支援業務（神戸市委託事業）	
(7) NPO 法人相談窓口事業	
(7) -1 NPO 法人設立・運営相談窓口事業（神戸市委託事業）	
(7) -2 認定 NPO 法人相談窓口事業（神戸市委託事業）	
(8) 孤独・孤立対策担い手育成支援事業（内閣府補助事業）	
(9) その他の中間支援事業	
ウ. 市民活動活性化につながる基金・財団等への支援事業	25
(10) 他の基金等の事務局受託事業等	
エ. 調査研究事業	26
(11) 調査研究・ネットワーク事業	
オ. 寄付啓発事業	28
(12) 広報・ファンドレイジング事業	
3. 組織	30
(1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況	
(2) 会議	
(3) 組織の基盤整備	
〈資料編〉	33
4. 決算報告	別紙
(1) 正味財産増減計算書	
(2) 正味財産増減計算書内訳書	
(3) 貸借対照表	
(4) 財産目録	
(5) 財務諸表に対する注記	
(6) 監査報告	

※附属明細書について

2024 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

1. 概況

公益第12期となる2024年度は、前年度に続いて助成事業・非資金的支援事業の両面でこれまでの活動をさらに深化させる1年となりました。引き続き多くの皆さまのご支援、ご参画を頂き、兵庫の市民セクター確立へむけた活動を実施することができました。心から感謝申し上げます。

助成事業の進展

助成事業では、各助成プログラムの改善を重ねたほか、ひょうご・みんなで支え合い基金では事業ではなく組織の強化に助成する「組織応援コース」を新設しました。有園博子基金ではここ数年「組織基盤強化」助成をしてきましたが、当財団の助成事業全体で、事業助成に加えて組織助成の重要性が高まっています。有園博子基金は数年後の終了を見据えた取り組みを検討していく必要があります。真如苑・ひょうご多文化共生基金と合わせて3基金の合同募集を2022年度から継続しています。

助成事業の中で特筆すべきは共感寄付プログラムのリニューアルです。2017年から長く常時募集の形で「第5期」を続けてきましたが、2025年2~3月にウェブサイトも一新し、新規参加団体を募集したところ、2025年6月末時点では継続9団体、新規12団体の計21団体、さらに申請中が9団体と30団体前後の大きな寄付募集プラットフォームになりました。大手クラファンのような知名度はありませんが、ローカルに根差し、また寄付控除も使える寄付募集の仕組みとして丁寧に育てていきたいと思います。

2024年度単年度の助成額は25,052,302円(65件)でした。財団設立からの累計では165,100,276円(514件)となりました。

非資金的支援事業の充実

相談、研修など助成事業以外の支援事業（非資金的支援と呼んでいます）では、当年度に続き、国の「孤独・孤立対策」関連の中間支援事業に県内外の中間支援組織と連携して取り組みました。NPOが「市民参加を募り受け止める力」を高めるための支援を「参加のデザイン」と名づけて実施するなど、全国の中間支援組織からも注目される取り組みを実施しました。この事業では中間支援における人材育成も重要テーマで、2025年度もさらに強化して継続予定です。

調査研究、提言活動

この1年間は、主に「公益法人制度」「中間支援と協働」の分野で活動しました。

前者は、公益法人制度改革の中で内閣府の「ガイドライン検討会」に参画し、現場からの意見を伝えました。また、引き続き大阪府の公益認定等委員会委員を務めました。

中間支援・協働については、「NPOと行政の協働タスクチーム」「CEO会議」ほか全国のネットワークの中で継続的に検討・協議しています。「中間支援機能の強化」は全国的な課題であり、引き続きアドボカシー（提言）も行いつつ、この分野の力を高めていきたいと考えています。

広報・資金調達（ファンドレイズ）の状況

広報・ファンドレイズ部門では、前年度から継続して当財団の「リ・プランディング」にも取り組み、第1フェーズの「ミッション・ビジョンの言語化」に続き、第2フェーズのロゴマーク・ロゴタイプを完成させました。

また、3年ぶりの遺贈セミナーを開催し当法人の遺贈の取り組み・実績をお伝えしたほか、いくつかの広報ツールの改訂を行いました。ただ、年度初めに最重点分野と位置づけながら、十分な取り組みには至りませんでした。今後の課題です。

組織

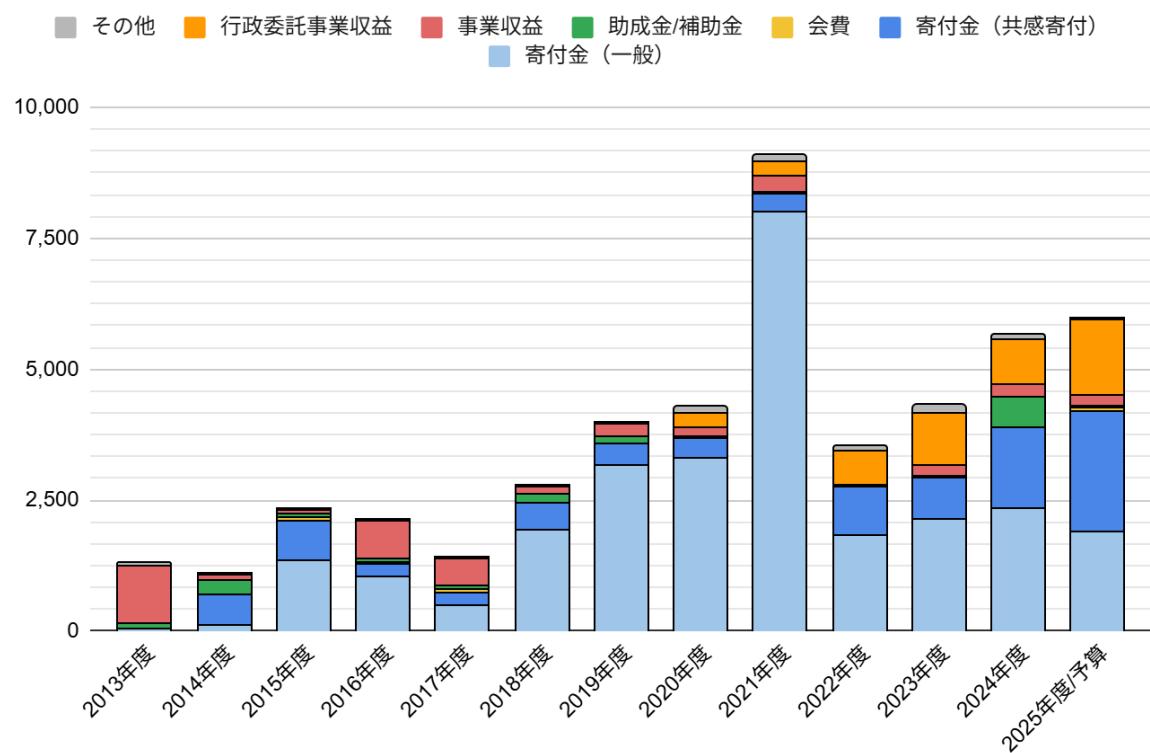
当年度は、事業・法人運営体制の強化にも取り組みました。理事会のもとに「広報・ファンドレイズ」「助成プログラム」「人事・総務」の3部会を設置し、評議員・役員数名ずつがメンバーとなって事務局とともに事業・法人運営の両面で活動を推進する体制ができました。本格的な始動は年度末から新年度にかけてでしたが、今後はこの部会が重要な役割を果たしていくと思われます。

事業規模の推移

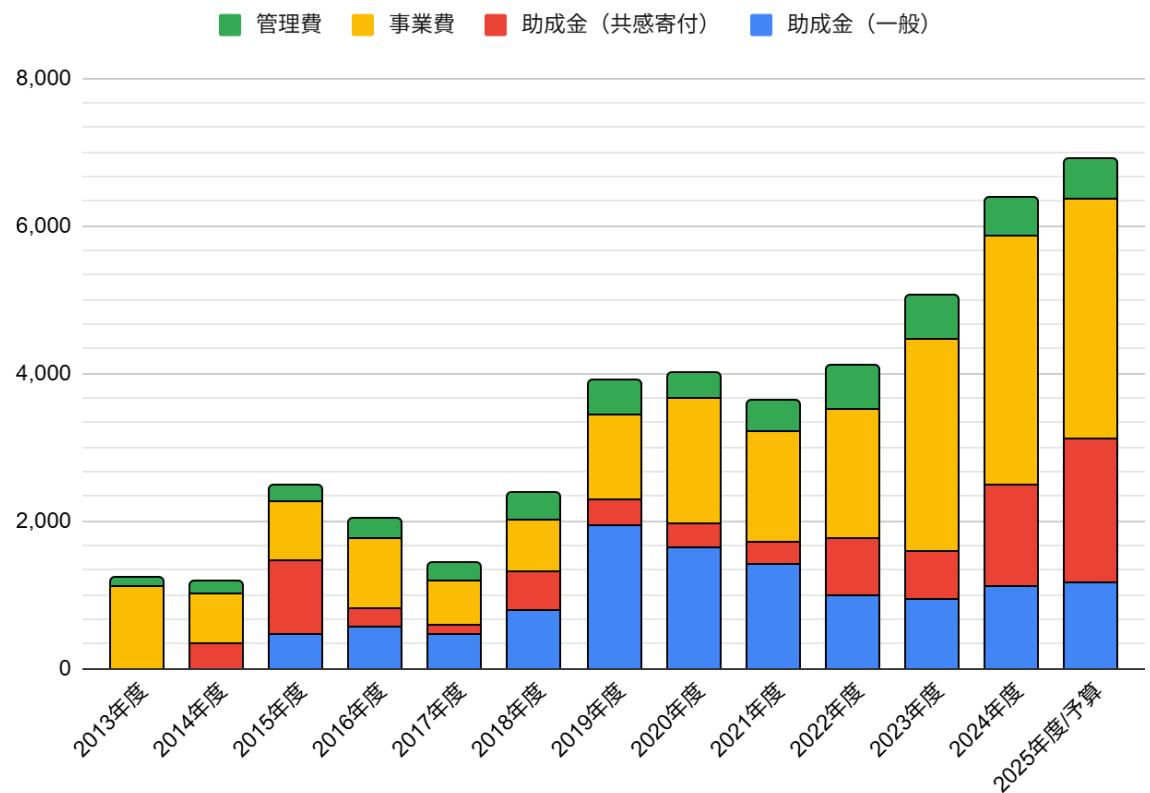
(単位：万円)

年度	経常収益	経常費用	経常増減	正味財産期末残高
2013 年度	1,290	1,240	50	416
2014 年度	1,111	1,170	-59	869
2015 年度	2,325	2,480	-154	356
2016 年度	2,121	2,017	104	307
2017 年度	1,405	1,435	-30	361
2018 年度	2,771	2,391	380	10,788
2019 年度	3,968	3,907	61	9,335
2020 年度	4,282	4,011	272	9,443
2021 年度	9,097	3,640	5,458	13,302
2022 年度	3,519	4,100	-581	12,174
2023 年度	4,308	5,045	-737	12,148
2024 年度	5,666	6,376	-709	9,319
2025 年度/予算	5,955	6,903	-948	8,339

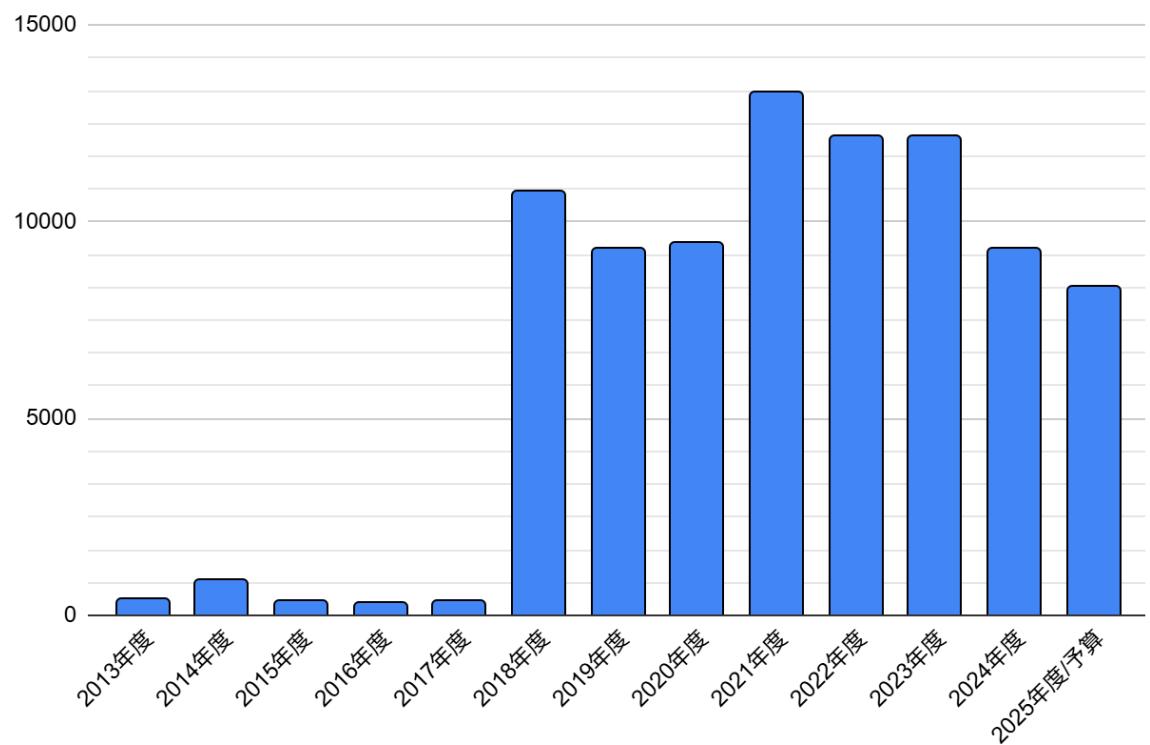
経常収益の内訳と推移 (2013年度～2025年度予算)



経常費用の内訳と推移(2013年度～2025年度予算)



期末正味財産残高(2013年度～2025年度予算)



2. 事業

ア. 市民活動団体への助成事業

当年度は以下の助成事業を実施した。

2024 年度助成（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

- (1) 共感寄付事業 第 5 期
- (2) 有園博子基金 第 6 期
- (3) 真如苑・ひょうご多文化共生基金事業 第 8 期
- (4) 新ひょうご・みんなで支え合い基金 第 2 期

2025 年度助成（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- (1) 共感寄付事業 第 6 期
- (2) 有園博子基金 第 7 期
- (3) 真如苑・ひょうご多文化共生基金事業 第 9 期
- (4) ひょうご・みんなで支え合い基金 第 3 期

「共感寄付」は 2017 年度から続けてきた第 5 期を 2025 年 3 月末で終了し、ウェブサイトの大規模なリニューアルを柱とした刷新を行い、2025 年 4 月から第 6 期として再スタートした。

「有園博子基金」「真如苑・ひょうご多文化共生基金」「ひょうご・みんなで支え合い基金」の 3 基金（事業 (2) ～ (4)）の合同募集（募集のみ合同で実施し、助成プログラムとしては独立）は 3 年目を迎えた。

「有園博子基金」は専門性を備えた実施体制が十分備わっている申請を採択した。不採択となった団体に対しては、どのような検討を経て結論に至ったかを希望者に個別にオンラインで説明する場を設けた。

「真如苑・ひょうご多文化共生基金」はテーマを多文化・外国人支援として 6 年目を迎えた（基金としては 9 年目）。採択団体を中心としたネットワークミーティングは、ポスターセッションを導入するなど、活発な相互交流と学び合いの機会となった。

「新ひょうご・みんなで支え合い基金」は名称を「ひょうご・みんなで支え合い基金」に変更した。第 3 期は新たに小規模な取り組みでの組織助成をサポートする「組織応援コース」を新設した。支え合い基金は個人（一般寄付、遺贈）・企業・団体など多くの寄付で成り立っていることも特筆しておきたい。

以上 4 種の助成プログラムで、2024 年度は計 65 件、25,052,302 円の助成を実施した（共感寄付は 2025 年 6 月末締めの寄付金の助成、3 基金は 2025 年度事業への助成）。当財団の助成額は累計で 165,100,276 円（514 件）となった。

○市民活動大交流会の開催

2024 年度の助成事業の一環として「市民活動大交流会」を初めて開催した。従来は個別に開催していた中間報告会を各基金の採択団体が一堂に会する形とし、共感寄付の参加団体にも呼びかけて、学び・報告・交流の 3 要素を盛り込んだ大交流会として企画・実施したもの。

同じテーマで活動する団体はもちろん、これまで接点の少ない団体同士が互いを知る場となり、閉会後も撤収時間まで多くの方が残って語らい合う盛況の交流会となった。

日時：2024年10月19日（土） 会場：あすてっぷ KOBE

参加：49名（採択団体から35名（27団体））

トーク&セッション：「参加で作る市民活動の魅力！」

ゲストスピーカー（敬称略）：高城 芳之（（特活）アクションポート横浜 代表理事）



高城氏が、横浜で学生の社会参加を進めている取り組みをヒントに「参加の入口づくり」を全員で考える場となった。



後半は班ごとにテーマを決めてグループトーク。互いの活動の紹介や課題の共有など大いに盛り上がった。

○合同募集の実施

「有園博子基金」「真如苑・ひょうご多文化共生基金」ひょうご・みんなで支え合い基金」について、共通の募集要項を作成し、広報や申請手続きを共通化した合同募集は3年目を迎えた。広報は兵庫県下のNPO法人や過去に助成を行った団体に対してチラシDMを発送したほか、県内の中間支援組織、県市町の社会福祉協議会と役所の市民活動担当部署に募集要項を送付して協力を仰いだ。DMは送料の値上げもあり、メールアドレスを把握している団体はメールでの案内に切り替えて、経費の削減に努めた。

○広報・募集の流れ

2024年	10月25日	募集要項公開
	11月中旬	募集チラシ発送（兵庫県下のNPO法人他）
	11月14日～12月4日	助成金説明会 神戸市・姫路市で対面各1回ずつ、オンラインは5回開催した。
	11月20日	募集開始
	12月19日	応募締切

(1) 共感寄付事業

「共感寄付」事業は、NPO・市民活動団体の寄付募集を、当財団の寄付控除資格を活用して集め、当該団体に助成というかたちで支援し、当該団体のめざす地域の課題を解決したり公益的活動を増進したりしようとする事業（仕組み）である。

当初は 2012 年、（特活）市民活動センター神戸（KEC）の事業として始まったが、2014 年度から当財団に事業移管した。2017 年度から通年募集の第 5 期を 7 年間継続していたが、当年度中にプログラムのリニューアルを行い、2025 年度 4 月より第 6 期として再スタートしている。

実施報告

共感寄付事業は第 5 期を 2025 年度 3 月末まで継続実施し、4 月からは第 6 期として再スタートした。当年度は、第 6 期スタートに向けてプログラムの見直し、ウェブサイトの全面改修、新規参加団体の募集など大規模なリニューアルを行った。

ウェブサイトは利用者（寄付者）が親しみやすいインターフェースに一新し、新規参加呼びかけにより参加団体数も 2024 年 6 月時点の 7 団体から 21 団体と一気に増加した。さらに 9 月以降に数団体の参加が見込まれている。

当年度は大口の寄付があったことや参加団体が増えプログラム自体が活性化したことによって、寄付額 16,287,414 円・助成額 13,844,302 円と、前年度の寄付額 7,843,070 円・助成額 6,666,609 円を大幅に超えるものとなった。

共感寄付事業は、他の事業における助成先団体の助成終了後の寄付募集を支える事業であり、助成先団体および助成終了団体への積極的な働きかけの継続に加え、市民の認知度を一層高めるべく広報強化にも注力していく。

（担当：大田、大内）

※採択団体一覧は末尾の資料編に記載。

【選考委員】（敬称略）

委員長	藤井 洋一	（株）神戸新聞社 論説副委員長/当財団理事
委 員	関谷 善行	（株）日本政策金融公庫 神戸支店 神戸創業支援センター所長
委 員	小谷 寛和	兵庫県県民生活部 次長（2025 年 3 月まで）
委 員	北 茂正	兵庫県県民生活部 次長（2025 年 4 月より）



リニューアルした共感寄付のウェブサイト。団体の紹介や各プロジェクトの寄付の進捗状況など具体的に分かりやすくなった。



日本語学校で学ぶ留学生のための奨学金給付事業を実施。2024 年は 16 名の留学生に一人当たり 10 万円（一次給付型奨学金、返還なし）を支給した。©奥田順子基金

(2) 有園博子基金事業

本基金は、2017年12月に逝去された故有園博子さん（兵庫教育大学教授＝当時）の遺贈により2018年8月に設立された。臨床心理士、精神保健福祉士として、また教育者として、DVや性暴力、犯罪の被害者、虐待された子ども、事故の被害者など、深い傷を負った人たちの支援と支援者育成に長く精力を傾けてこられた故人のご遺志を受け、①DV被害者、②虐待された子ども、③性暴力の被害者、④JR福知山線脱線事故のご遺族の4分野に対する支援もしくは支援のための研究を行う団体・個人を支援している。2024年度の第6期より、4分野に加えて「困難な状況にある女性への支援活動」「これに関わる支援のための研究や、予防・防止のための教育・啓発活動」も支援対象に加えている。

実施報告

当年度は、2024年4月スタートの第6期助成事業を実施いただくとともに、2025年4月開始の第7期の企画、準備を行い、2024年10月から公募を開始した。

第7期の企画委員会（2024年7月12日開催）では、「組織基盤強化コース」（上限100万円）と、小規模な助成枠「活動応援コース」（上限20万円）の2コースを継続して設けた。また組織基盤強化の理解を頂くことと専門性の強い分野であることから、第7期から、採択歴のない団体に対しては事前相談を行うことを要件とした。

第7期募集では前期から微減の10件の申請があり、組織基盤強化コース・活動応援コースを合わせて計5件（計3,408,000円）の助成を実施した。専門性を備えた実施体制が十分備わっている申請を採択し、新規の団体に対してはやや厳しい結果となったが、不採択となった団体に対しては、どのような検討を経て結論に至ったかを希望者に個別にオンラインで説明する場を設けた。

助成以外の支援では組織基盤強化の一環として、第6期も伴走支援（アドバイザー派遣）を、助成採択団体・過去の採択団体のうち希望する4団体に対して実施した。第7期は2団体に対して伴走支援を行うこととしている。

（担当：福田、長澤、安井、奥田、実吉）

【事業実施〈第6期〉】

○助成期間 2024年4月1日～2025年3月31日

○伴走支援（アドバイザー派遣）の実施とその研究会開催

当年度も有園博子基金の助成先団体において伴走支援を実施した。

有園基金第6期は4団体に対して実施し、第7期は2団体の支援を行う。

団体名	担当アドバイザー	支援内容	派遣回数 ^{※1}
（特活）性暴力被害者支援センター・ひょうご	柏木 輝恵	行政からの大きな委託が望めない現状を踏まえて団体の方向を確認。ボランティアも含めて、できる範囲での役割分担を確認。	11回
（特活）フェミニストカウンセリング神戸	当財団事務局	今後の団体の方向性の整理と事業の見直しのサポート。	4回

(特活) こどもサポートステーション・たねとしづく	河合 将生	チームビルディングをテーマにした団体の合宿のサポートと、財源確保と次年度事業に向けての課題整理	3回
(一社) TICC	当財団事務局	業務負担の集中の見直しや事業の負担感が大きい事業の見直しのサポート。	6回 ^{※2}

※1 いずれも第6期（2024年4月～2025年3月）の件数

※2 孤独・孤立対策担い手育成支援事業の一環として実施

・アドバイザー（敬称略）

荻野 俊子 NPO会計支援センター 代表

柏木 輝恵 （特活）シミンズシーズ 事務局長

河合 将生 office musubime 代表/当財団理事

東末 真紀 個人

○各種企画 「忘れない4.25追悼のあかり」のメンバーを囲む会

有園博子基金の助成先団体の皆さんで「忘れない4.25追悼のあかり」のメンバーを囲みお話を伺う会を開催した。事故被害者（遺族）による活動の様子や現況とこれからの展望、有園博子さんとの思い出を語り合う和やかな場となった。

日時：2024年11月1日（金）会場：中央区文化センター

参加：13名

【企画、募集と選考〈第7期〉】

○助成期間 2025年4月1日～2026年3月31日

○選考の流れ

2024年 7月12日 第7期企画委員会開催（オンライン）

10月25日～12月19日 募集開始～応募締切（合同募集）

2025年 3月6日 第7期選考委員会開催

6月8日 キックオフミーティング

○応募状況と採択団体

〈組織基盤強化コース〉 応募 8件（応募額 6,037,000円）採択 4件（採択額 3,248,000円）

〈活動応援コース〉 応募 2件（応募額 360,000円）採択 1件（採択額 160,000円）

合計 応募 12件（応募額 5,233,000円）採択 5件（採択額 3,408,000円）

※採択団体一覧は末尾の資料編に記載。

【企画委員】（敬称略／肩書きは委員会開催当時）

委員 岩井 圭司 大阪人間科学大学 人間科学部医療福祉学科 教授

委員 柏木 登起 （特活）シミンズシーズ 代表理事

委員 竹端 寛 兵庫県立大学 環境人間学部 教授

委員 仁科 あゆ美 （一財）大阪府男女共同参画推進財団 理事・本部長/当財団評議員

委員 西部 智子 法律事務所ユノ 弁護士

委員 増井 香名子 日本福祉大学 社会福祉学部 准教授

【選考委員】(*=企画委員と兼任、敬称略／肩書きは委員会開催当時)

委員長	岩井 圭司	*
委 員	石田 賀奈子	立命館大学 産業社会学部 教授
委 員	竹端 寛	*
委 員	西部 智子	*
委 員	三井 ハルコ	(特活) 市民事務局かわにし 理事長



JR 福知山線脱線事故の日に合わせて行われてきた追悼の灯り。事故から 20 年を迎えた 2025 年で区切りに。有園博子基金の支援に大きな感謝の意を寄せさせていただいた。 ©わすれない 4.25 追悼のあかり 実行委員会



オレンジリボンフェスタ 2024in あまがさき」で絵本展示と読み聞かせを行った (2024.11.16)。有園博子基金の支援で性教育プログラム開発と、それを実施できる人材の育成を実施。 ©性暴力被害者支援センター・ひょうご

(3) 真如苑・ひょうご多文化共生基金事業

本基金は宗教法人真如苑による寄付を原資とし、「多文化共生・外国人支援」に取り組む団体、中でも貧困や暴力、差別に苦しむ人への支援に携わる取り組みを優先的に支援しようとするものである。

この10年、外国人労働者の受け入れは大きく拡大しており、コロナ禍を経ながら、日本で働く外国人労働者数は過去最高を更新し続けている。政府でも外国人技能実習生制度の見直しを進め、2024年6月に外国人人材の育成と研修を目的とした「育成就労制度」の創設を盛り込んだ法律が可決したところだが、現時点では社会の対応はまだまだ十分とは言い難い。今後、人口減少が続く日本社会においては、多文化・多民族の共生はますます大きなテーマになっていく。

本基金により、兵庫県内で多文化共生・外国人支援の活動を行うNPO等、団体の活動に対し、その充実・発展・拡大と、各団体相互のネットワーク・連携強化を図っていく。

実施報告

本基金は「多文化共生・外国人支援」を対象分野として6年目に入った。これまでの採択数はのべ38件（団体数は23）、5～36万円の範囲で毎年120～130万円の助成を行ってきた。

当年度は計14件の応募があり、選考の結果、神戸・阪神地域から6件、それ以外の地域から4件の計10件（うち2件は2年採択枠）を採択、総額130万円の助成を決定した。

また例年のキックオフミーティングは、2025年5月30日、名称を「多文化共生ネットワーク会議」とし、前年度、当年度の助成先団体のほか、過去の採択団体、真如苑、選考委員、役員、事務局、合計41名（25団体）で実施した。例年の過年度団体の報告、新年度団体のキックオフに加え、参加団体すべてによるパネルセッションやグループセッションを導入し、深く活発な相互交流と学び合いの貴重な機会となった。

（担当：長澤、大田）

【事業実施〈第8期〉】

○助成期間 2024年4月1日～2025年3月31日

【企画、募集と選考〈第9期〉】

○助成期間 2025年4月1日～2026年3月31日

○選考の流れ

2024年 10月25日～12月19日 募集開始～応募締切（合同募集）

2025年 2月27日 第9期選考委員会開催

5月30日 多文化共生ネットワーク会議（こうべまちづくり会館）

（新年度10団体11名、前年度7団体8名他、過去の採択団体等8団体13名）

○応募状況と採択団体

応募 14件（応募額3,600,000円）

採択 10件（採択額1,300,000円）

(神戸阪神 6 件 採択額 850,000 円、神戸阪神外 4 件 採択額 450,000 円)

※採択団体は末尾の資料編に記載。

【選考委員】(敬称略／肩書きは委員会開催当時)

委員長	武田 丈	関西学院大学人間福祉学部 教授
委 員	小澤 昌甲	(社福) 神戸 YMCA 福祉会 常務理事
委 員	横川 太	(公財) 兵庫県国際交流協会 専務理事
委 員	李 裕美	(特活) 多言語センターFACIL 理事長
委 員	原島 照司	真如苑 社会交流部社会交流課



選考委員会での応募団体とのヒアリングの様子。対面でオンラインで、現場の声を聞く貴重な機会となっている。
(2025.2.27)



多文化共生ネットワーク会議は助成先団体の活動報告および計画発表の場。同時に、今回はすべての参加団体によるポスターセッション、グループセッションを行った
(2025.5.30)。

(4) ひょうご・みんなで支え合い基金事業

「ひょうご・みんなで支え合い基金」は新型コロナ禍の市民活動を支援した「(旧) ひょうご・みんなで支え合い基金」の名称を受け継ぎ、兵庫県下で活動する市民活動を市民が寄付で応援していく市民どうしの支え合いを日常的に具現化していくものである。助成に関わる事務や選考過程を共有することで、小規模の基金でも、寄付者の意志を尊重しながら、より多くの浄財を助成に充てることができる。

市民・住民が主体的に参加し、人々の力で社会課題に取り組もうという気運を醸成する取り組みのプロセスを高く評価し、また幅広い協力のネットワークの形成や、ネットワークを活かした活動を重点的に応援している。

実施報告

第3期で募集した基金は下表の通りである。寄付者の意向に基づいて「若者活動応援分野」「子ども支援分野」「一般分野」を設定して、それぞれの助成金に充当した。

これまでに行ってきました事業助成に加えて、小規模な組織支援の枠として「組織応援コース」を新設した。また若者活動応援分野では兵庫県内の大学のボランティア担当・学生担当に広報協力を依頼し、前期を大きく上回る10団体からの応募をいただいた。

選考委員会はこれまで全分野・コースを一括して選考してきたが、分野・コースを増設したことに合わせて、3つの委員会を設置した。

第3期は全体で98団体から応募いただき、若者活動応援分野から5団体、子ども支援分野から7団体、一般分野から9団体、組織応援コースで4団体の計25団体を採択、総額650万円の助成を決定した。25件の採択のうち事業規模100万円未満の団体が15件(300万円未満だと22件)、活動歴が3年以下の団体が12件あり、地域に関わろうと一歩を踏み出した市民を支える役割を担いつつある。

地域の地道な取り組みを支えるのもコミュニティファンドの役割であり、今後もこうした取り組みを支えるプログラムを検討していきたい。

(担当: 実吉、福田、大田、長澤、安井、大内、奥田)

【第3期で募集した基金の一覧】

分野・コース	基金名	分野・内容	助成予定額
1) 若者活動応援分野	野田子ども・若者応援基金	子ども支援・若者の活動支援	80万円
2) 子ども支援分野	田中成治基金	子ども支援	250万円
	中村毅一郎・婦美乃基金	子ども支援	
	ASAHI-MITSUHASHI基金	医療・子ども支援	
3) 一般分野	岸鶴夫基金	高齢者支援	240万円
	中村毅一郎・婦美乃基金	分野限定なし	

	實吉一夫基金	分野限定なし	
	匿名基金	分野限定なし	
4) 組織応援コース	支え合い基金全体の枠組みから拠出	分野限定なし	80万円

【事業実施〈第2期〉】

○助成期間 2024年4月1日～2025年3月31日

【企画、募集と選考〈第3期〉】

○助成期間 2025年4月1日～2026年3月31日

○選考の流れ

2024年	10月25日～12月19日	募集開始～応募締切（合同募集）
2025年	2月25日	組織応援コース選考委員会
	3月18日	若者・子ども部会選考委員会
	3月21日	一般分野選考委員会

○応募状況と採択団体

応募 98件（応募額 32,155,000円）、採択 25件（採択額 6,500,000円）

※採択団体は末尾の資料編に記載。

【選考委員】（敬称略/肩書きは委員会開催当時）

○若者活動応援分野・子ども支援分野

委員長	石田 祐	関西学院大学人間福祉学部 教授
委 員	川中 大輔	シチズンシップ共育企画 代表、龍谷大学社会学部 准教授
委 員	末永 美紀子	（特活）こどもコミュニティケア 代表理事
委 員	長沼 隆之	神戸新聞社 論説副委員長

○一般分野

委員長	石田 祐	関西学院大学人間福祉学部 教授
委 員	相川 康子	（特活）NPO政策研究所 専務理事
委 員	坂西 卓郎	（公財）PHD協会 常務理事 事務局長/当財団理事
委 員	馬場 正一	（社福）兵庫県社会福祉協議会 事務局長

○組織応援コース

委員長	早瀬 昇	（社福）大阪ボランティア協会 理事長/当財団評議員
委 員	柏木 輝恵	（特活）シミンズシーズ 事務局長
委 員	村上 義弘	コミュニティ会計研究所 代表



こども家庭庁より不登校の担当官を招きし、神戸と姫路で講演会を実施。不登校に対する国の施策説明をいただくと共に直接当事者の声を届ける貴重な機会となつた。 ©兵庫フリースクール等連絡協議会



第2回を迎えた2024年は来場者1,032名と増加した。イベント終了後、ステージにて集合写真を撮る神戸レインボーフェスタ2024実行委員会・ボランティア。 ©神戸レインボーフェスタ実行委員会

(5) 災害支援事業

兵庫県内での災害に対しての救援活動への助成を想定しているが、2024年度は実施しなかった。

イ. 市民活動団体への非資金的支援事業

資金助成と車の両輪となる非資金的支援を、2022年度以降、充実させてきている。

以前からの取り組み	2022年度	2023年度	2024年度
有園博子基金における伴走支援（自主事業） 日常的な相談活動（自主事業）			
認定NPO法人相談窓口（神戸市）			
	地域課題に取り組むNPO等に対する運営支援業務（神戸市）		
		孤独・孤立対策活動基盤整備 モデル調査事業（内閣官房）	孤独・孤立対策担い手育成支援事業（内閣府）
			NPO法人設立・運営相談窓口事業（神戸市）

上記の通り、非資金的支援（いわゆる中間支援）業務が増えてきた。神戸市の事業では任意団体から認定NPO法人まで様々な段階の市民活動団体の相談窓口やセミナー/講座の提供を実現している。

非資金的支援の実施そのものとともに、その内容の充実、専門性の向上や成果の見える化にも取り組んでいる。中間支援の強化は引き続き全国的な課題であり、他の中間支援組織とも連携、切磋琢磨しつつネットワーク型で取り組んでいる。

「孤独・孤立対策」の2年目となる「孤独・孤立対策担い手育成支援事業」も県内外の中間支援組織のネットワークで実施し、「ひょうごモデル」の構築を目指した取り組みを行った。

(6) 地域課題に取り組む NPO 等に対する運営支援業務 (神戸市委託事業)

2022 年より継続受託している「地域課題に取り組む NPO 等に対する運営支援業務」を、2024 年度も受託した。2024 年度は、地域割りではなく「ワークショップ・セミナー業務」と「相談業務」という業務別での公募であったが、当財団は、その内「ワークショップ・セミナー業務」を受託し、神戸市の補助金取得団体が自立して活動を継続できることを目指し、団体の運営基盤の強化を図ることを目的に、下記のセミナーを実施した。

対象が神戸市の補助金採択団体 182 団体に限定された事を鑑み、より密なコミュニケーションを意識し、全体を「わくわく会議」と銘打ち、年間計画を早々に打ち出すと共に、毎週のようにメール通信を発信する等、広報活動にも注力しながら実施した。

(担当：安井、長澤)

○第一弾 「個人」から「組織」に一会員制度から始めてみる (全 3 回)

3 回連続講座として、会員制度や会則・規約の作成を通じて組織つくりの基本とそのノウハウを学んだ。

実施時期 2024 年 9~10 月、参加者 延べ 13 団体・15 人

○特別編 事務力 UP のための基礎講座 (全 1 回)

各種報告書の作成に悩む各団体を想定して、報告書作成だけ事務力 UP の為の講座を切羽詰まつ期末ではないこの時期に開催し、事務の考え方やその意義から学んだ。

実施時期 2024 年 11 月、参加者 25 団体・26 人 (アーカイブ視聴を含む)

○第二弾 資金講座 (全 3 回)

3 回連続講座として、資金講座を実施した。第 1 回・第 2 回は「教えて先輩！」と題して先輩団体の資金調達の面での苦労話やどう乗り越えたかの経験を当財団スタッフとの対談形式でお聞きした。資金課題を身近に感じ解決への問題意識を高めたところで、第 3 回として、ファンドレイジング講座を行い資金つくりの基礎を学んだ。

実施時期 2024 年 11~12 月、参加者 延べ 49 団体・52 人以上 (アーカイブ視聴を含む)

○第三弾 広報講座 (全 4 回)

全 4 回の講座だが、第 1 回は、CANVA の活用について、そのテクニックを学ぶ講座をオンラインにて実施。残り 3 回は、連続講座として、デザイナー・編集者・カメラマンがそれぞれの視点で、何を伝えるか、その伝えるコツは何かを学ぶ、広報の本質を考える講座を行った。

実施時期 2025 年 1-2 月、参加者 延べ 89 団体・97 人以上（アーカイブ視聴含む）

※第一弾～第三弾とも詳細は資料編に記載

上述の通り、神戸市の意向で参加対象が絞られたことにより、参加者集めには苦労したが、その分、密度の濃いコミュニケーションを図ることができたこと、更に補助金採択団体の声を聞きアーカイブ視聴を取り入れたこともあり、より多くの団体に参加して頂けたことはよかったですと考える。結果、参加者の満足度

は非常に高い（アンケートでは、とても良かったと良かったの合計が約 90%）ものとなり、来期も続けてほしいとの声も多数頂けた。



広報講座、自団体のチラシを持ち寄ってのワークショップの様子（2025.1.21）

(7) NPO 法人相談窓口事業

(7) -1 NPO 法人設立・運営相談窓口事業 (神戸市委託事業)

「NPO 法人設立・運営相談窓口事業（中部ブロック：中央区・兵庫区・長田区）」を、2024 年 4 月～2025 年 3 月、2025 年 4 月 18 日～2026 年 3 月に当財団が受託した。

NPO 法人の設立を検討している市民や団体、また設立後の NPO 法人の役員変更・定款変更ほか、法人運営全般に対する常設相談を中心に、総会準備から所轄庁提出までに関する相談会の実施、NPO 法人設立に向けての説明会を実施した。

(担当：大田、大内、福田)

1) 相談窓口業務（常設相談）

初年度の 2024 年 4 月～2025 年 3 月は 97 件の相談があった。

設立相談は 45 件あり、NPO 法人の設立に向けて申請書類の確認（19 件）や、法人認証手続（9 件）を中心に対応を行った。こうした設立相談を経て設立認証に至ったケースは 8 団体あった。このほか NPO 法人そのものについて説明を希望する相談を 12 件受けている。

また運営相談は 52 件で、役員変更手続き 10 件、会計事務 9 件といった分野の相談が多かった。その他には融資・監事人材・社会保険・遺贈処理・障害者事業・助成金といった多種多様な分野の相談に預かっている。

2024 年 4 月～2025 年 3 月：59 団体計 97 回、2025 年 4 月～2025 年 6 月：17 団体計 25 回

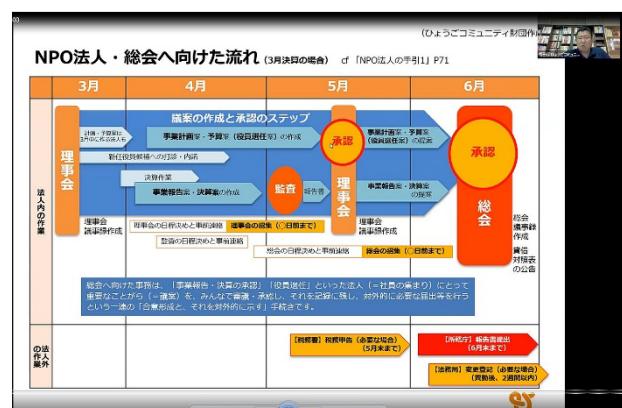
2) 相談会

名称「NPO なんでも相談会…報告書類の作り方、総会準備から所轄庁提出まで」

2024 年 4 月～2024 年 6 月の間に 2 回（延べ 17 人参加）、

2025 年 4 月～2025 年 6 月の間に 2 回（延べ 8 人参加）の相談会を開催した。

※開催詳細は資料編に掲載。



3) 説明会

名称「NPO 法人のつくり方説明会」

2024 年 4 月～2025 年 3 月の間に 2 回（延べ 16 人参加）の説明会を開催した。

※開催詳細は資料編に掲載。

NPO なんでも相談会（オンライン）の様子（2025.6.10）

(7) -2 認定 NPO 法人相談窓口事業 (神戸市委託事業)

「認定 NPO 法人相談窓口事業」を、2024 年 4 月～2025 年 3 月、2025 年 4 月～2026 年 3 月に当財団が受託した。窓口開設及び出張相談では、認定 NPO 法人制度の基礎知識や具体的な申請手順、認定取得後の義務、所轄庁の監督について説明し、団体の状況に応じたアドバイスを行った。

当事業の成果としては、認定 NPO 法人取得・更新に係る多様な支援を行うことで、神戸市内の認定 NPO 法人及び取得希望団体に対して、法人の運営体制の整備や認定・更新手続きのサポートが出来たこと、法人運営の会計や事務の知識を共有できたこと、そして神戸市所管の認定 NPO 法人と当財団の関係性が深まりつつあることが挙げられる。

(担当：福田、奥田、大田)

1) 認定 NPO 法人制度及び認定取得・更新のための組織運営に関する相談窓口

2024 年 4 月～2025 年 3 月：18 団体計 45 回、2025 年 4 月～2025 年 6 月：6 団体計 11 回

2) 認定取得・更新のための組織運営に関する出張相談

2024 年 4 月～2025 年 3 月：5 団体計 7 回、2025 年 4 月～2025 年 6 月：1 団体 1 回

3) 認定 NPO 法人制度及び認定取得・更新のための組織運営に関する説明会の企画・開催

2024 年 4 月～2025 年 3 月の間に 3 回（延べ 35 人参加）の講座を開催した。

※開催詳細は資料編に掲載。

4) 認定 NPO 法人の組織基盤強化等に向けた学習会・情報交換会の企画・開催業務

神戸市管轄の全認定 NPO 法人に呼びかける学習会・情報交換会を 2 回行った。

2024 年 8 月 5 日 「認定 NPO 法人の更新について基本的な説明」「認定更新の手続き」「認定更新の書類を提出した後の神戸市による訪問調査」オンライン開催（参加数：16 人）

2025 年 2 月 19 日 「認定更新に向けた、書類等のスムーズな整理」対面開催（中央区文化センター、参加数：10 人）

5) 認定 NPO 法人の実態把握のためのカルテの作成業務

神戸市管轄の認定 NPO 法人全 28 団体を対象としたカルテ作りを行った。各団体の実務担当者とオンラインによる面談を行い、事務局体制や現在の課題、次回更新に向けた課題などを確認。市内の認定 NPO 法人の実態を把握するとともに、認定更新へ向けての相談につなげる資料とした。また各法人の実務担当者とつながりが出来ることも相談の促進では大きな意味を持っている。

(8) 孤独・孤立対策担い手育成支援事業（内閣府補助事業）

近年、「孤独・孤立」という問題の深刻さと、孤独・孤立対策におけるNPOの重要性の認識が社会的に共有されるとともに、こういった活動を担う小規模なNPOへの支援における中間支援組織の重要性も認識されるようになってきた。その一方、現実の中間支援組織においては、当財団も含めて、支援の専門性、それを有する人材、活動資金源等の面で潜在ニーズに対して課題も多く、その強化が大きな課題であると認識してきた。

そのような流れの中で、2023年度、関西5府県の中間支援6団体によるコンソーシアムの一員として、「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査」事業（内閣官房委託）を実施したが、2024年度は、それが内閣府交付金事業「孤独・孤立対策担い手育成支援事業」として継続されたことを受け、当財団が代表団体となり、県内6団体、県外3団体によるコンソーシアムを組み参加した。

実施報告

2024年度「孤独・孤立対策担い手育成支援事業」では、公募を経て、以下に示す兵庫県内外の中間支援組織9団体がコンソーシアムを組み、「孤独・孤立対策のための中間支援3.0『ひょうごモデル』推進事業」と銘打った事業を実施した。

本事業は、孤独・孤立対策の推進のために、地域の市民活動（NPO）等を支援する中間支援の活動を促進・強化しようと企図された国の事業の一環だが、本コンソーシアム事業の特色は、地域ベースで活動する全国の中間支援組織がネットワークを組み、兵庫県を活動エリアとして「伴走支援」「市民活動を促進するセミナー」「空白地域における中間支援活動インキュベート」の3事業を協働で取組み、また、それを研究会として、事例検討を行い、ひとつの「ひょうごモデル」として構築を目指したもので、その成果を1冊の報告書としてまとめ上げた。

（担当：安井、長澤、実吉）

○事業概要

1) 伴走支援事業

孤独・孤立対策に取組む小規模NPO3団体に対し、複数の支援者が一定期間、組織の状況に寄り添った支援を実施し、組織の基盤つくりを進めた。参加団体には、客観的な視点を得られて課題解決への道筋が見えたこと、組織内で話し合いや取組み等に十分な時間を取り取組めた等のポジティブな変化が生じた。

2) 市民活動を促進するセミナー事業

小規模NPO等の市民参加を促進する力とそれに対する中間支援組織の支援力の双方を高めるために、市民参加の仕組みを学び、推進する場づくりとして、「参加のデザインフォーラム in HYOGO」と「参加のデザイン短期集中セミ（全4回）」を実施した。フォーラムには73



参加のデザインフォーラム in HYOGO の様子（2024.9.29）

人が参加、短期集中ゼミには全国よりのべ 91 人が参加し、参加した団体がこのゼミでの活動をつうじて、ボランティアを募って活動を広げる企画を仕上げる等、具体的な変化をもたらした。

3) 中間支援活動インキュベート事業

兵庫県の中山間地域で、NPO 等の中間支援機能がない、或いは組織が存在しない地域において、地元人材をキーパーソンとして見つけ、経験のある中間支援団体が連携して中間支援事業を試行した。具体的には西脇市を選定し、事前準備、人材発掘から、地域ニーズに合った企画立案、更にその実施まで、ハンズオンで支援し、ノウハウの共有や支援事業の立上げを行った。

4) 全体研究会

コンソーシアム団体が定期的に集まり、進捗の共有と相互の改善提案や手法の検証を行い、共有知化を図った。また、3 月には対面＋オンライン併用の公開方式で活動報告会を実施し、全国から 77 人（アーカイブ視聴は別途 45 人）の参加を得て成果を伝えると共に、これからの中間支援のあり方について議論を深めた。

【コンソーシアム団体】

代表団体：ひょうごコミュニティ財団

兵庫県内 明石：(一財) 明石コミュニティ創造協会

北播磨：(特活) 北播磨市民活動支援センター

加古川：(特活) シミンズシーズ

丹波：(特活) 丹波ひとまち支援機構

姫路：(特活) 姫路コンベンションサポート

兵庫県外 茨城：(認定特活) 茨城 NPO センター・コモンズ

岐阜：(特活) ぎふ NPO センター

東京：(認定特活) 日本 NPO センター



当事業にて制作した「孤独・孤立対策のための中間支援 3.0『ひょうごモデル』推進事業」報告書はこちらより内容をご確認いただけます。

https://hyogo.communityfund.jp/shiminkatudo_shien/

(9) その他の中間支援事業

これまで述べてきた行政事業の範囲外でも、日常的な活動として兵庫県内の市民活動団体からの相談に対応してきた。

ウ. 市民活動活性化につながる基金・財団等への支援事業

(10) 他の基金等の事務局受託事業等

1) 住友ゴム工業 CSR 基金のサポート事業

本事業は、住友ゴム工業株式会社が従業員から募金を任意で集め、その募金と同額を会社が負担するマッチングギフトにより地球環境問題や社会問題解決に向けた多様な CSR 活動を支援するものである。助成先は、ひょうごコミュニティ財団が推薦した団体を同社内部で選考し決める。2025 年度は 5 団体の推薦となり総額 150 万円の助成となった。

(担当：長澤、安井)

※採択団体は末尾の資料編に記載

エ. 調査研究事業

(11) 調査研究・ネットワーク事業

当年度は、主に「公益法人制度」「中間支援と協働」の分野で活動した。前者は、公益法人制度改革の中で内閣府の「ガイドライン検討会」に参画し、現場からの意見を伝えた。法人の自治の尊重、事前規制から事後規制へ、規制ルールの明確化という大方針の中で、法定されている事項以外は極力ルールで規制するのではなく法人の自治に委ねること、できるだけ簡素な制度にすることなどを主張したが、まだまだ複雑な制度となっている。2024年の公益信託法改正を受けて、2025年春から公益信託制度の改正への動きも本格化し、制度論議が進んでいる。粘り強く、ユーザーである公益法人や、参加・支援し監視もする市民・国民にとってわかりやすい、使いやすい制度にしていく必要がある。

中間支援・協働については、「NPOと行政の協働タスクチーム」「CEO会議」ほか全国のネットワークの中で継続的に検討・協議している。また、「(8) 孤独・孤立対策担い手育成支援事業」の中でも中間支援機能のあり方について調査研究を進めている。

「中間支援機能の強化」は全国的な課題であり、引き続きアドボカシー（提言）も行いつつ、この分野の力を高めていきたい。

1) 「中間支援」「協働」に関する研究、提言

研究としては、①「NPOと行政の協働タスクチーム」において「協働」という側面からの学習を行った。事業実施の中で、中間支援のあり方の検証、強化を行った（→「(8) 孤独・孤立対策担い手育成支援事業」事業参照）。

2) 委員・役員等の受任

〈団体〉

- ・神戸市居住支援協議会 正会員団体

- ・NPO法人会計基準協議会 正会員・世話団体

〈個人〉

- ・(特活)市民社会創造ファンド 理事

- ・神戸市居住支援協議会 会員

- ・兵庫県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 委員（新規）

- ・NPOと行政の協働タスクチーム 世話人

- ・NPO・市民活動支援共有ミーティング「わくわく会議」 世話人

- ・(公財)トヨタ財団 国内助成プログラム 選考委員（2024年10月まで）

- ・(社福)中央共同募金会「被害者やその家族等への支援活動助成」 選考委員

- ・Panasonic NPO/NGO サポートファンド 選考委員

- ・災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議 委員

- ・大阪府公益認定等委員会 委員（任期：2023.8～2025.8）

- ・内閣府公益認定等ガイドライン研究会 参与（任期：2024.6～2025.3）

※いずれも実吉代表理事

3) 加盟している団体やネットワーク、学習会等

- ・ひょうご市民活動協議会 (HYOGON) (団体正会員)
- ・ひょうご中間支援団体ネットワーク (加盟団体)
- ・ひょうごん福祉ネット (団体正会員)
- ・(認定特活) 日本NPOセンター (団体正会員)
- ・NPO法人会計基準協議会 (団体正会員)
- ・(認定特活) NPO会計税務専門家ネットワーク (NPO@PRO) (団体正会員)
- ・(一社) 全国レガシーギフト協会 (団体正会員)
- ・市民ファンド/コミュニティ財団の集い
- ・新公益信託制度研究会 (新規)

4) 講師派遣の実績

〈実吉代表理事〉

- 2024年7月19日 協力アカデミー「コミュニティのための資金をつくる」
- 2024年10月29日 居住支援勉強会 (神戸コミュニティラボ)
- 2024年11月11日、25日、12月9日 協力アカデミー「中間支援」
- 2024年11月9日 「NPOキャンパス」((特活) NPOサポートセンター)
- 2025年2月19日 「伝えるコツ」20周年フォーラム
- 2025年6月14~15日 日本NPO学会 (テーマ:「市民参加」「資金調達」)
- 2025年6月20日 遺贈セミナー ((特活) 市民社会創造ファンド)

〈福田職員〉

- 2024年7月~9月 (認定特活) 日本NPOセンター／パナソニックホールディングス (株)
「NPO/NGO『支援力』応援プログラム 現場の声から学ぶ！組織診断サポート研修」チューター

才. 寄付啓発事業

(12) 広報・ファンドレイジング事業

1) 広報

2023 年度年次報告書を作成したほか（ウェブサイトで公開）、助成団体の事業報告をまとめた「2023 年度助成事業実施報告」をはじめて作成した（ウェブサイトで公開）。

紙のニュースレターは年度内に1回の発行（第9号/2025年5月）を行った。また10年ぶりに三つ折りリーフレットの改訂を行った。

SNS は Facebook を中心に情報発信を行い、Instagram と X（旧 Twitter）、Bluesky も更新を行っている。

2023 年度より取り組んでいるブランディングの一環として、ブランドパーソナリティやロゴマーク・ロゴタイプの策定を進め、新たなロゴ（下記）とトーン＆マナー（トンマナ）を定めた。順次、ウェブサイトや広報物に反映している。



（担当：福田）



（2024 年からの新ロゴ）

2) 寄付つき商品

○ASAHI-MITSUHASHI 基金

朝日ゴルフ株式会社様に同社の健康器具「ごるトレ」「ボディトレ」を寄付つき商品として頂き、売上からご寄付を頂いた。

これを基にした「ASAHI-MITSUHASHI 基金」は、「ひょうご・みんなで支え合い基金」に統合し、「子ども支援分野」枠として公募した。

○夢工房株式会社

夢工房株式会社様に同社の健康管理ソフトウェアを寄付つき商品として頂き、売上からご寄付を頂いた。「ひょうご・みんなで支え合い基金」の原資として、「子ども支援分野」枠として公募した。

3) 遺贈寄付

年間 10 件前後のご相談をお受けしている。若い方からのご相談や、遺贈を受ける予定の方からのご相談（受遺した遺産を個人で受けず、社会貢献に使ってほしいという相談）など、特色のあるご相談が多く、ご本人のご意向に添うようご相談に応じている。

4) 遺贈セミナー

4 年ぶりとなる遺贈セミナーを開催し、専門家ほか多数の方に当法人の遺贈の取り組み・実績をお伝えした。

【事業概要】

題名 「相続と社会貢献を考える」 遺贈セミナー

日時 2025年1月28日（火）

会場 オンライン

参加者 20名

講師 実吉 威 代表理事

重田 和寿 監事

宮崎 洋彰 監事

3. 組織

(1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況（いずれも敬称略）

【評議員】

2024年9月27日開催の定時評議員会において下記の通り改選された。

（任期：2024年9月27日～2028年度評議員会終了時）

評議員 小谷 公仁子（新任） 評議員 佐伯 亮太（新任） 評議員 谷川 尚（新任）
評議員 出口 正之（新任） 評議員 中山 光子 評議員 仁科 あゆ美（新任）
評議員 早瀬 昇

【理事・監事】

2024年9月27日開催の定時評議員会において下記の通り改選された。

（任期：2024年9月27日～2026年度評議員会終了時）

理事 実吉 威（代表理事） 理事 西河 紀男（代表理事）
理事 島田 雄三（副代表理事）
理事 岡村 こず恵 理事 河合 将生 理事 坂西 卓郎（新任）
理事 谷口 享子（新任） 理事 永田 謙蔵 理事 藤井 洋一
理事 冬頭 佐智子
監事 重田 和寿 監事 宮崎 洋彰

b n

【顧問】

2024年8月27日開催の理事会において下記の通り改選された。

（任期：2024年8月27日～2026年度決算理事会）

顧問 小森 星兒 顧問 田中 茂 顧問 室崎 益輝（新任）

【専門アドバイザー】

阿部 陽一郎 石田 祐 萩野 俊子 川中 大輔 行司 高博
久戸瀬 昭彦 久保 幸一 佐藤 等史 茶野 順子 長沢 恵美子
畠本 康介 馬場 英朗 細谷 崇 松井 薫 渡辺 元

【事務局ボランティア】

西池 陽一

(2) 会議

【評議員会】

2024年9月27日 第17回定時評議員会（ひょうごコミュニティ財団事務所）

出席評議員 8名中6名

審議事項 1. 2023年度決算案承認の件

2. 役員等選任案承認の件

3. 定款変更案承認の件

【理事会】

2024 年 8 月 27 日	第 60 回理事会（財団事務所およびオンライン）
	出席理事 9 名中 9 名（監事 2 名出席）
	審議事項 1. 2023 年度事業報告案承認の件 2. 2023 年度決算案承認の件 3. 2024 年度定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項の決定の件 4. 顧問選任案承認の件 5. 役員報酬変更案承認の件
2024 年 9 月 18 日	第 61 回臨時理事会（みなし決議の方法により開催）
	審議事項 1. 定時評議員会（2024 年 9 月 27 日開催）の議案である役員等選任案の承認の件
2024 年 10 月 4 日	第 62 回臨時理事会（みなし決議の方法により開催）
	審議事項 1. 正副代表理事選定案承認の件
2024 年 12 月 2 日	第 63 回理事会（財団事務所およびオンライン）
	出席理事 10 名中 10 名（監事 2 名出席）
	審議事項 1. 理事会における部会制について
2025 年 6 月 12 日	第 64 回理事会（財団事務所およびオンライン）
	出席理事 10 名中 10 名（監事 2 名出席）
	審議事項 1. 2025 年度事業計画案承認の件 2. 2025 年度予算案承認の件

【ビジョン会議（評議員・役員等合同会議）】

ビジョン会議（評議員・役員等合同会議）を 5 月に行ってきたが、2024 年度は実施せず、時期を 7 月にして 2025 年 7 月 23 日に選考委員・役員等意見交換会を開催した（2025 年度事業）。

【部会】

後述のように、正規の理事会の下に「広報・ファンドレイズ部会」「助成プログラム部会」「人事・総務部会」の 3 部会を置くこととなった。2024 年度中には「広報・ファンドレイズ部会」と、「助成プログラム部会」の前身にあたる会合を各 1 回ずつ開催した。

2024 年 10 月 15 日	助成プログラム検討会（財団事務所およびオンライン）
	出席：実吉代表理事、河合理事、坂西理事、福田職員、大田職員、安井職員
2025 年 5 月 30 日	広報・ファンドレイズ部会（三宮の飲食店にて）
	出席：西河代表理事、実吉代表理事、谷口理事、永田理事、藤井理事、福田職員、安井職員

（3）組織の基盤整備

1) 理事会の部会制

2024 年 12 月の第 63 回理事会において、理事会の下に「広報・ファンドレイズ部会」「助成プログラム部会」「人事・総務部会」の 3 部会を置くことを決定した。前 2 者は 2025 年 5 月から新年度

の8月にかけてスタートした。人事・総務部会は従来から「働き方改革プロジェクト」として開催してきたものの発展版である。

正規の理事会は年4回程度に開催頻度を下げ、この部会を中心に重要事項を協議し進めていくこととなった。

2) 事務局体制

ほぼ前年度からの体制（常勤6名、非常勤1名）を維持した。外部の研修や他団体との交流等にも積極的に参加し、各自がネットワーク拡充とスキルアップに努めた。

少人数で多数の事業を担当しているため、まだ明確な担当部門分けには至っていないが、徐々に役割分担は進みつつある。

○2024年度事務局体制・職員一覧

代表理事 実吉 威 ※事務局長兼務

常勤職員 福田 和昭 大田 哲三 長澤 潤一郎 安井 育 大内 直子

※週4日の準常勤職員を含む。

非常勤職員 奥田 裕之

〈資料編〉 ※以下に記載する人物名は全て敬称略、肩書きも当時のものとしております。

ア. 市民活動団体への助成事業

(1) 共感寄付

寄付募集事業、参加団体および寄付額 集計期間：2024.6.23～2025.3.31

(単位：円)

事業名	団体名	寄付額	助成額	累計寄付額	寄付募集期間
ホームレス状態、安定した住居がない方への支援活動	(特活) 神戸の冬を支える会	2,807,164	2,386,089	17,189,174	2017.11.20～2025.3.31
知的障害者とアーティストによる即興音楽プロジェクト	音遊びの会	90,000	76,500	919,715	2018.4.13～2025.3.31
”神戸市職員有志×地元大学生”が行う無料学習支援と講師と受講生の最適マッチングアプリの全国無料開放	(一社) 神戸みらい学習室	2,050,000	1,742,500	11,527,000	2019.12.19～2025.3.31
離婚により離れ離れになった親子の面会を支援する活動	(特活) 家族支援センター・クローバー	535,000	454,750	1,605,000	2022.10.1～2025.3.31
日本語学校で学ぶ留学生の「ゆめ」を奨学金で後押し	奥田純子基金	1,600,470	1,360,400	4,497,470	2023.2.1～2025.3.31
学習の機会に恵まれない子供たちの夢をかなえたい	(特活) Seeds of Tomorrow (旧：全国夜間中学ネット)	581,000	493,850	581,000	2023.12.22～2025.3.31
「自分の人生は自分で選ぼう」つながり続ける伴走支援の基盤整備	(特活) こどもサポートステーション・たねとしづく	26,000	22,100	151,820	2023.12.22～2025.3.31
トイレが足りない！倉庫を校舎へ！日本初デモクラティックスクールで学ぶ子どもたち史上最大の挑戦	(一社) デモクラティックスクールまくろくろすけ	135,932	115,542	135,932	2024.7.20～2025.7.31
言葉と制度の壁を越えて。困難を抱える外国人の相談・支援活動	(特活) NGO 神戸外国人救援ネット	531,500	451,775	531,500	2024.9.1～2025.8.31
合計		8,357,066	7,103,507	43,842,624	

寄付募集事業、2025年6月新規参加団体 寄付募集期間：2025.6.1～2026.3.31

団体名	事業名・寄付募集金額
神戸レインボーフェスタ実行委員会	神戸レインボーフェスタ 2026 (300万円)
(特活) 神戸教員支援 Teacher's	自信をもって明るく元気に子どもたちの前に立ち、『病まない・病めない』先生を一人でも多く！ (100万円)
(特活) 西脇てとて広場	生きづらさを抱えた子どもが自分らしさを肯定し、本来の力を取り戻して生き生き輝ける子どもの居場所事業 (80万円)
(特活) DUAL RING	障害のあるなし関係なく誰もが笑顔になれる居場所づくり (100万円)
(特活) AVA 健康 Labo	元気な100歳講座と元気な子ども講座 (50万円)
(一社) Fir-St-Art	音楽を軸とする居場所・つながり～音楽サークル＆ステージフェスタ (100万円)
NFB (旧：西宮市肢体不自由児者父母の会)	オールキッズフェスタひょうご (120万円)

RIC コミュニティライブラリー	～「本との出会い」が身近にあるまちに～六甲アイランドで 28 年続く私設図書施設 (100 万円)
(特活) 福祉ネット星が丘	子ども以上大人未満の方々の自立ホーム設立 (300 万円)
(認定特活) 東灘地域助け合いネットワーク	地域の絆を守り 30 年 住民同士の助け合いで地域福祉の課題を解決する生活支援サービス (100 万円)
(特活) ウィズアス (神戸ユニバーサルツーリズムセンター)	無料レンタル「KOBE どこでも車いす」プロジェクト (200 万円)

(2) 有園博子基金

〈第 7 期 採択団体一覧〉 事業期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

〈活動応援コース〉

(単位：円)

個人/団体名	事業名	所在地	採否と金額
浜野 千春	表現活動を通じた DV 被害後女性の回復支援	神戸市	160,000
	計		160,000

〈組織基盤強化コース〉

(単位：円)

団体名	事業名	所在地	採否と金額
(特活) こどもサポートステーション・たねとしづく	虐待の予防の視点を地域に広げる・支援者を増やす	西宮市	1,000,000
面会交流支援センターピロティ	子どもの利益となる面会交流の事業	神戸市	248,000
(特活) 女性と子ども支援センター・こうべ	中長期視点に基づく基盤構築のための組織基盤強化事業	神戸市	1,000,000
(一社) TICC	当事者と支援者をつなぐ地域に根差したトラウマインフォームドケア/コミュニティ事業	尼崎市	1,000,000
	計		3,248,000

(3) 真如苑・ひょうご多文化共生基金

〈第 9 期 採択団体一覧〉 事業期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

(単位：円)

地域	団体名	事業名	所在地	採択額
神戸 阪神	マサヤンタハナン	フィリピン移住者の暮らしを支える相談窓口事業	神戸市	300,000
	HANS Tree	日本の子育て制度「わからない?」から「わかった、安心!」になる寄り添いサポート	神戸市	200,000
	(特活) ガルーダ・ジャパンコミュニティ	在留外国人の生活環境改善推進事業	神戸市	150,000
	(特活) 日本語とエクスチェンジの会	移民難民・教育弱者の方への日本語学習およびキャリア支援事業	神戸市	100,000
	Arts For All	HAPPY AFRICAN FESTIVAL	神戸市	80,000
	CoCoCara 芦屋	日本語支援教室（2年助成の2年目）	芦屋市	20,000
神戸 阪神 外	にこにこ日本語教室	①にこにこポルトガル教室 ②にこにこ日本語教室、地域との交流活動	加古川市	200,000
	(特活) りとるめいと	外国籍の親子支援	養父市	200,000
	(一社) さんサンにほんご	未来へつなぐ日本語教室&学習サポートプログラム	たつの市	50,000
	(特活) 多文化センター まんまるあかし	みらいのきょうしつ うおずみきょうしつ の新設（2年助成の2年目）	明石市	*100,000
	計			1,400,000

※第 8 期に合わせて助成。

(4) ひょうご・みんなで支え合い基金

〈第3期〉事業期間：2025年4月1日～2026年3月31日

〈若者活動応援分野〉

(単位：円)

団体名	事業名	地域	採択額
学生422	若者アクション活性化事業	神戸市長田区	200,000
プライドプロジェクト	LGBTQ ユースのための居場所事業	西宮市	200,000
Socie-Tea	日本茶を用いた在留外国人の自立的なコミュニティ作り事業	神戸市中央区	131,000
(特活)夢ノ森伴走者 CUE	ユース世代を対象とした地域密着型チームビルディングによる人材育成プログラム事業	姫路市	200,000
KGUコンポスト	土から始まる循環革命～『コミュニティコンポスト』事業～	西宮市	69,000
若者活動応援分野 合計			800,000

〈子ども支援分野（Aコース）〉

(単位：円)

団体名	事業名	地域	採択額
(特活) みらぼて	学校が苦手な子の居場所づくりと保護者のサポート	小野市	200,000
Teenagers' Free! Theater	ちょっと学校に行きにくい10代の為の演劇サークル 第20回演劇公演	宝塚市	200,000
ととのうラボ Ashiya	0歳からのととのうラボ	芦屋市	150,000
小計			550,000

〈子ども支援分野（Bコース）〉

(単位：円)

団体名	事業名	地域	採択額
Deaf LGBTQ Center	聴覚障害児向けLGBTQ×サポートブック制作	神戸市垂水区	500,000
(特活) ピアサポートひまわりの家	子どもの居場所みーな 地域につながる駄菓子屋みーな	宍粟市	500,000
(特活) ふえっこ自然村	学校以外の多様な学びの選択肢としての里山共育コミュニティモデル事業	丹波市	500,000
(公財) 神戸YWCA	夏休み勉強に役立つ日本語クラス	神戸市中央区	450,000
小計			1,950,000
子ども分野（Aコース+Bコース）合計			2,500,000

〈一般分野（Aコース）〉

(単位：円)

団体名	事業名	地域	採択額
(特活) ゲートキーパー支援センター	地域の相談室事業	伊丹市	130,000
(特活) MixRainbow	講演会 今更聞けないLGBTQ+入門	尼崎市	180,000
(特活) あんだんて KOBE	知的障がい児者と取り組む参加型音楽フェスティバル	神戸市灘区	160,000
播州ストリートダンス協会	ダンスで繋がる希望のネットワーク 2025～多様性と包摂の社会を目指して～	姫路市	150,000
たんば社会教育士コミュニティ	「たんば社会教育士コミュニティ」による社会教育士の認知度向上と交流・人材育成事業	丹波市	140,000
(特活) しそう夢鉄道	鉄道のない町宍粟市を鉄道模型で地域活性	宍粟市	140,000
小計			900,000

〈一般分野（B コース）〉

（単位：円）

団体名	事業名	地域	採択額
神戸レインボーフェスタ実行委員会	神戸レインボーフェスタ 2025	神戸市中央区	500,000
(特活) 武庫川 ECO-LABO	フィッシュシェアリング活動	尼崎市	500,000
コミュニティスペース そらにじひめじ	ひめじヒューマンライブラリー2025	姫路市	500,000
小 計			1,500,000
一般分野（A コース+B コース）合計			2,400,000

〈組織応援コース〉

（単位：円）

団体名	事業名	地域	採択額
(特活) 西脇てとて広場	「子どもの居場所」安心安全ガイドラインの作成と理解	西脇市	182,000
(特活) IPPO	地域における NPO 法人 IPPO の役割を軸にした組織基盤強化	尼崎市	168,000
(特活) 育ちあいサポートブーケ	組織基盤強化事業	川西市	250,000
からとの未来を考える会	神戸市北区唐櫃地域におけるコミュニティプラットフォーム構築	神戸市北区	200,000
組織応援コース合計			800,000

ひょうご・みんなで支え合い基金合計	6,500,000
-------------------	-----------

イ. 市民活動団体への非資金的支援事業

（6）地域課題に取り組む NPO 等に対する運営支援業務（神戸市委託）

○第一弾 「個人」から「組織」に一会員制度から始めてみる

	日 に ち・場 所	各回テーマ	講 師	団 体	人 数
第 1 回	2024 年 9 月 24 日（火） 中央区文化センター	会員制度の基本・作り方	実吉威（当財団代表理事）	8 団体	10 人
第 2 回	10 月 4 日（火） 中央区文化センター	実際に会員制度を作ってみよう	同上	3 団体	3 人
第 3 回	10 月 22 日（火） 中央区文化センター	かんたんな規約をつくろう	同上	2 団体	2 人

○特別編 事務力 UP のための基礎講座

	日 に ち・場 所	各回テーマ	講 師	団 体	人 数
第 1 回	2024 年 11 月 5 日（水） 中央区文化センター	事務力 UP のための基礎講座 理想が共鳴を呼び、思いが内面化する	松島俊哉（はるかのひまわり絆プロジェクト代表）	25 団体	26 人

○第二弾 資金講座

	日 に ち・場 所	各回テーマ	講 師	団 体	人 数
第 1 回	2024 年 11 月 19 日（火） 中央区文化センター	教えて先輩！資金のつくり方！	村西優季（(特活) NGO 神戸外国人救援ネット理事）	16 団体	17 人
第 2 回	12 月 3 日（火） 中央区文化センター	同上	竹林ゆか（神戸フリースクール）	15 団体	16 人

第3回	12月16日(火) 中央区文化センター	資金調達の基本を学ぶ	河合将生(office musubime 代表/当財団理事)	18団体	19人
-----	------------------------	------------	--------------------------------	------	-----

○第三弾 広報講座

	日にち・場所	テーマ	講師	団体	人数
第1回	2025年1月7日(火) オンライン	CANVA講座	林田全弘(グラフィック・デザイナー)	26団体	28人
第2回	1月21日(火) 中央区文化センター	広報実践講座 day1 デザイン編	和田武大(デザインヒーロー代表)	18団体	19人
第3回	2月4日(火) 中央区文化センター	広報実践講座 Day2 ことば編集編	高木大吾(デザインスタジオ パステル代表)	23団体	26人
第4回	2月18日(火) 中央区文化センター	広報実践講座 Day3 撮影編	坂下丈太郎(写真屋じょううち やん)	22団体	24人

(7) NPO 法人相談窓口事業

(7) -1 NPO 法人設立・運営相談窓口事業(神戸市委託事業)

2) 相談会

日にち・場所	各回テーマ	講師	人数
2024年5月22日(水) 中央区文化センター	NPO なんでも相談会...報告書類の作り方、総会準備から所轄庁提出まで	大田哲三(当財団職員)	7人 (個別相談6件)
6月4日(火) オンライン	NPO なんでも相談会...報告書類の作り方、総会準備から所轄庁提出まで	福田和昭(当財団職員)	10人 (個別相談2件)
2025年6月6日(金) 中央区文化センター	NPO なんでも相談会...報告書類の作り方、総会準備から所轄庁提出まで	大田哲三(当財団職員)	5人 (個別相談4件)
6月10日(火) オンライン	NPO なんでも相談会...報告書類の作り方、総会準備から所轄庁提出まで	福田和昭(当財団職員)	3人 (個別相談1件)

3) 説明会

日にち・場所	各回テーマ	講師	人数
2024年9月19日(木) オンライン	NPO 法人のつくり方説明会	大田哲三(当財団職員)	6人 (個別相談1件)
10月27日(日) 中央区文化センター	NPO 法人のつくり方説明会	福田和昭(当財団職員) ゲスト:西口和寿((特活)ガルーダジャパンコミュニティ代表理事)	10人 (個別相談3件)

(7) -2 認定 NPO 法人相談窓口事業(神戸市委託事業)

3) 認定 NPO 法人制度及び認定取得・更新のための組織運営に関する説明会の企画・開催

日にち・場所	各回テーマ	講師	人数
2024年5月21日(火) 中央区文化センター	NPO 法人の監事の役割講座	宮崎洋彰(公認会計士・税理士/当財団監事)	18人
8月22日(木) 中央区文化センター	NPO 法人の運営基礎講座	奥田裕之(当法人認定 NPO 法人相談窓口担当)	9人
8月28日(水) 中央区文化センター	認定 NPO 法人入門講座	大島一晃(場とつながりの研究センター/当法人認定 NPO 法人相談窓口担当) ゲスト:高野捧((認定特活)Present Garden to 事務局長)	8人

ウ. 市民活動活性化につながる基金・財団等への支援事業

(10) 他の基金等の事務局受託事業等

1) 住友ゴム工業 CSR 基金 採択団体一覧

〈2025 年度〉事業期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

(単位：円)

	団体名	地域	助成金額	備考
1	(認定特活) てんびん	神戸市	300,000	継続
2	(特活) ゆるり家	稻美町	300,000	新規
3	(特活) リベルタ学舎	神戸市	300,000	新規
4	(一社) 須磨里海の会	神戸市	300,000	新規
5	被災地 NGO 協働センター	神戸市	300,000	新規
	計		1,500,000	